

7 図画工作科

増村 光恭・加藤 潔己

1. 個が生きる図画工作科の授業の評価

(1) 個が生きる図画工作科の授業

図画工作科の主たる目標は、創造的心情を持った人間の育成である。創造性の基本には、「自由な発想と活動の多様性」があり、子供一人一人の内側に「つくりたい」「かきたい」という内発的動機に支えられた意欲がなければならない。一人一人の思いや願いから始まる造形活動を通し、創造の喜びを感じ、人間的な成長をはかることが求められているわけである。

本来子供は、未分化で総合的なもので、生活そのものが自分らしさの表現である。ところが、その生活自体が失われつつある現在、学校教育の中で生き生きした総合的な表現活動を保障していく必要がある。そのためには、子供一人一人の思いを大切に、自分で考え自分でやっていく自主的主体的な姿が求められているわけである。

以上のことから、図画工作科においては、

○一人一人の児童が、自分の思いで、いろいろ試み、広げ、膨らませていくことができる。

○集団で認め合い深め合う中で、多様な価値を知り、自分なりの表現が広がる。

という授業が求められるわけである。

本校では、「個が生きる図画工作科の授業」の条件を以下のように考えている。

①材料との出会いの場での、はっきりしためあて意識の形成がなされていること。

②児童の思いがかなえられるような活動の場の保障がなされていること。

児童の多様な試みや工夫が認められる場の保障がなされていること。

③児童相互が認め合い、互いのよさに気付くことができる風土が形成されていること。

以上の条件は、指導のねらいや内容が、児童一人一人の思いに基づいて無理なく展開され個々はその造形活動を通して自己実現を可能にすることを第一に考えている。これらの条件を満たそうとする視点こそが、評価の視点であり、評価を指導の一貫として位置づけることを念頭に授業を構成する必要がある。つまり、一人一人のよさに着目し、個が生きる援助・支援としての評価のあり方が求められるわけである。

(2) 個が生きる図画工作科授業の評価

評価については、子供のありのままの姿をとらえることを基本に、指導を行う際に以下のような考え方を持って行うこととした。

①評価は、児童一人一人の意欲を高めるような支援援助の形で行う。

児童のよりよくなろうとするよさを信じ、そのよさを積極的に見いだそうとする姿勢と、それを生かそうとすることが評価の基本であるとする。

②学習活動を効果的に行うための指導の一環として行う。

一人一人の思いの実現が図られたかを知る学習状況の把握としての評価を行い、授業展開の改善を図ると同時に、児童の意欲を高める評価を行うことが大切であるとする。

③豊かな感性を育成する視点で、児童をまるごと評価する。

人間としてのよさや可能性などの総合的な評価の視点で、児童一人一人を評価する。

2. 図画工作科における「自己を高める評価力の育成」

自主的主体的な造形活動には、自己評価力が働き、よりよいものを創り出そうとする意欲や、自分の思いを表現しようとするこだわりがある。このような自己評価力には、創造する構えが存在し表現したいという意欲、思いの実現をめざす表現の目的、表現の方法、表現の手順等、子供の思いによって成り立っている。

自己評価力の育成には、自己評価の場を設定することや自己評価の習慣をつけさせるだけでは不十分であり、自己を高める段階まで到達することは難しいと考える。子供の内面に触れる共感的な評価や、個々の造形思考が発揮される場面があってこそ育成が図られるわけである。つまり、

①一人一人の思いが、広がりや深まりを求めていくような造形思考の場にあふれた授業。

②個に応じた共感的な認めや援助支援ができる指導者。

③自己を振り返り、新たなめあてを求めていこうとする意欲的な子供。

の3点が重要であると考え。個々の活動場面で考えていくなれば、自らの表現の質の向上を求めのこだわりや、思いやアイデアに食いが下がる態度であり、授業構成の面から考えていくなれば価値の実感がある授業が求められるわけである。

自己評価力を育てる授業過程の指導と評価

	指 導 の 手 だ て	評 価 の 観 点
内 発 的 動 機 の 触 発	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験、造形体験から造形活動を創成する。 造形的な思考を必要とする場面を重視する。 活動の流れをわかりやすくする。 柔軟性を持って構成する。 遊び・活動の発生を促す。(提案・材料) 【課題を発生させる。材料に課題を潜ませる。】 	<ul style="list-style-type: none"> ○材料経験・用具の扱い・技法等の造形能力面での実態把握。 ○造形活動への関心の把握。心情面での実態把握。 【実態把握・事前的評価】 ○活動展開の予想・見通しを持つ。
自 主 的 自 発 的 活 動	<ul style="list-style-type: none"> 材料や場所からの発想や思いつきを生かして、造形活動を展開させる。 材料から方向性を生み出させる場合。 方法を知ることから始まる場合。 互いを認め合う中で進めさせる。 広がり、高まりのある試みや工夫を持たせる。(造形的刺激・意欲付け・かかわり) 【造形思考を刺激する手だてを講じる】 	<ul style="list-style-type: none"> ○材料からの発想の把握。 ○用意した材料や用具の把握。 ○活動への、意欲、興味の把握。 ○活動の積極性、誠実さ、協力追求心など個々の活動内容や態度の把握及び賞賛をすすめる。 ○個と集団の関係の把握。 【賞賛と励まし・形成的評価】
活 動 を 振 り 返 る	<ul style="list-style-type: none"> 活動の喜びと満足感を味わわせる。 集団の中で活動の振り返りをおこなわせる。 材料や新しいアイデアを求めるような刺激を与え次の造形活動への期待を膨らませ、意欲を持たせる。 【何かを求める場面・自己評価力の育成】 	<ul style="list-style-type: none"> ○造形活動の楽しさを、個々のレベルで把握。 ○新たなめあて発生の把握。 ○活動を振り返る機会・これからの見通しを持つ。 【発展・総括的評価】